

加賀東谷地区における、歴史的環境を活かした集落活性化と住民主体のまちづくり支援

参加団体名 まちづくり支援隊（石川工業高等専門学校・金沢工業大学・金沢美術工芸大学）

参加学生 西出早希・宮里宜雅・伊能雄大・早川海斗・林瑠璃子 他 15名

1. 地域活動の概要

加賀市東谷地区については、ここ数年地域住民・行政・学校の3者協働によるまちづくりを行い、将来的に住民を主体としたまちづくり活動の実現を目指し活動を行ってきた。しかし地元高齢層が中心となり進めてきた活動で、集落活性化のための継続的な外部からの支援活動が必要である。そこで、平成23年度の重伝建選定後の交流人口増加を見据え、地区内の魅力向上を図るとともにかつてから培われてきた里山ならではの風情ある景観の保全活動も同時に行った。

2. 地域活動の具体的な内容

表1 年間スケジュール

日時	内容
6月 23日	現地調査 山野草カフェささゆりガーデン整備（8名）
7月 24日	三者合同会議（12名）
8月 7日	東谷地区会議（5名）
8月 24日	三者合同会議（16名）
9月 20日	現地調査
10月 12日	加賀橋立北前船主の里のれきし探訪 東谷・橋立のまちづくりについて発表 ロゴマークコンペ（8名）
10月 28日	あいおす祭（2名）
11月 5日	三者合同会議（12名）
11月 17日	橋立地区現地調査（15名）
11月 30日	現地調査 山野草カフェささゆりガーデン整備（8名）
1月 27日	東谷地区会議（8名）



図1. 加賀東谷(夏)



図2. 加賀東谷(冬)

1) 三者協働会議

現地を整備するにあたって、学生・行政・住民が共通の目標を持つことはとても重要である。そのために定期的にメンバーが集まり、整備や今後の住民主体のまちづくり活動を円滑に進めるための方策の話し合いを行った。



図3. 会議のようす

2) 山野草カフェガーデン整備活動

平成 23 年度から行っている活動の継続である。今年度の活動は、主に雑草の除去、レンガの不陸の調整等の整備である。固まる砂などを使用し一部の敷地のみを試験的に行った。来年度は引き続きガーデン全体の整備を行う予定である。



図 3. ガーデン整備のようす



図 4.5 ガーデンでの試験のようす



3) 現地調査・提案

今年度新たに開始した旧道・新保の池の整備のための現地調査と資源活用のための提案を行った。今回は、図面を作成するための測量や写真撮影、現状の景観資源の確認や整備ポイントの調査を行った。



図 6.7 旧道の調査（今立）



図 8.9 新保の池の調査（今立）

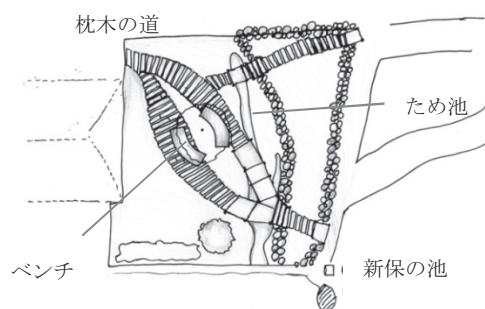


図 10 新保の池の提案

4) 「加賀橋立北前船主の里れきし探訪（橋立地区）」への参加
 同市にある重伝建「加賀橋立」で、活用モデル物件を会場に、学生・行政・住民の協働まちづくりを啓発するイベントが行われた。橋立地区・東谷地区の保存活動の成果や、これからの活動の方策についての発表を行った。橋立地区の住民に保存活動を知ってもらう機会となり、加賀地域の交流の場となった。



図 11 「加賀橋立北前船主の里れきし探訪」パンフレット

5) ロゴマークコンペの開催

石川県内の重伝建 4 地区（加賀橋立・加賀東谷・白山市白峰・輪島市黒島）のイメージ戦略として、ロゴマークコンペを行った。各学校で学生に呼びかけ、応募を募った。各地区の住民を交えた会議を行い、ロゴマークを決定した。応募総数は全体で 47、各地区では加賀橋立地区 14、加賀東谷地区 11、白山白峰地区 12、輪島黒島地区 10 であった。



図 12-15 各地区のロゴマーク

(加賀橋立)

(加賀東谷)

(白山白峰)

(輪島黒島)

3. 地域活動の成果

豊富な文化遺産や自然環境を活かして、交流の核となるカフェや遊歩道の整備、情報発信等を、学生・行政・住民（地元保存会）の協働で行い、活動を通じて学生が東谷の良さを発見することで、住民は地域の魅力を再認識でき、さらにまちづくりに対して関心を持ったと考えられる。

また、高齢化が進む住民や保存会に代わって学生が整備を積極的に行うことで、若年層の交流人口の増加が見られ、今後の住民主体のまちづくりの足掛かりとなった。

4. 来年度の地域活動計画

1) 山野草カフェガーデンの完成

問題となっていたレンガの沈み込みによる水たまりについては、固まる砂をレンガ部分に用いたところ改善が見られた。今年度は試験的に庭の一部の整備を行ったので、来年度は庭全体に固まる砂を用いて整備し、ガーデンの完成をはかる。

2) 旧道の整備

今年度は現状調査および提案を行った。来年度は整備活動の具体的な内容について話し合っていく必要がある。

3) 新保の池の保全活動

今年度は現状の調査および提案を行い、図面を作成した。来年度はそれをもとに具体的にその提案をつめ、整備を進めていきたい。

5. 学生の感想

住民や保存会の高齢化が進んでいく中で、学生との協働はどちらにとってもよい刺激を与えていくであろう。だが、協働のための意思の疎通がうまく図れないこともあり、食い違いが生じているのも現状であると考え。今後はお互いさらに歩み寄り、相乗効果を作り出すような関係を築いていくことが大事である。

6. 地域活動に対する地域からの評価

1) 「加賀橋立北前船主の里れきし探訪」にてまちづくり活動について発表

平成 25 年 10 月 12 日に開催された加賀橋立地区のイベントにおいて、本活動について発表し、橋立地区の住民及び他地域の方々からも高く評価された。

2) 地域からの評価（加賀市）

過疎化が進行し、住民のほとんどが高齢者である加賀東谷地区において、学生の若い力がまちづくりに加わることで得られた効果、課題は以下である。

効 果

- ・東谷の拠点施設「山野草かふえささゆり」の整備が進んだ。
- ・学生が整備活動に取り組む姿をみて、住民の町づくりに対する意識が向上した。
- ・学生から東谷の特色を活かした景観整備計画が提案されたことで、住民が東谷のアピールポイントを再認識できた。
- ・東谷の今後のまちづくりについて、大学からの専門的な指導を受けて計画することができた。
- ・高齢の住民がほとんどのため、学生の活動がまちづくりの大きな力となった。

今後改善すべきこと

- ・住民・学生・行政官の意思の伝達体制の構築
- ・学生の活動の住民への周知と、住民のまちづくりへの参加
- ・学生が卒業する際の活動の引き継ぎ